



令和6年9月30日
海上保安庁

JICA 課題別研修「救難・環境防災コース」を開講 ～救難・環境防災に関する国際貢献～

海上保安庁は、国際協力の一環として、独立行政法人国際協力機構（JICA）の枠組みの下、海外の海上保安機関の職員を我が国に招き、参加各国の海上における業務執行体制の強化を目的として、JICA 課題別研修「救難・環境防災コース」を実施します。

1 研修概要

本研修は昭和57年から実施されており、搜索救助手法、油防除にかかる初動対応、現場指揮など救難・環境防災に関する能力向上支援を通じ、各国海上保安業務（救難・環境防災）の発展に寄与することを目的としており、今回で42回目の開催となります。

2 研修日程・場所

日程：令和6年10月1日（火）～11月8日（金）

場所：海上保安庁本庁、海上保安学校宮城分校、第二管区海上保安本部、仙台航空基地、羽田特殊救難基地、横浜海上防災基地、海上保安試験研究センター、（一財）海上災害防止センター、震災遺構仙台市立荒浜小学校 等

3 予定参加国及び人数（下線は初参加国）

コモロ1名、ジブチ1名、エジプト1名、フィジー1名、モンゴル1名、モザンビーク1名、パラオ1名、ソロモン1名、スリランカ3名、東ティモール1名、トーゴ1名、バヌアツ1名、ベトナム1名、イエメン1名、インドネシア2名、バングラディシュ2名、マレーシア1名（17か国21名）

4 主な研修内容

- ・ 搜索救助、海上防災及び環境保全等に関する講義
- ・ 海上保安庁施設の視察及び救難器材取扱実習
- ・ 海上防災に関する訓練

○ 過去の研修状況



オイルフェンス取扱実習



救難訓練

※ JICA 課題別研修

課題別研修は、日本側が研修内容を企画・計画し、開発途上国に提案する研修です。日本が有する知識や経験を通じて途上国が抱える課題解決に資するよう、国内の多くの関係団体と連携しつつ実施しています。病院管理のノウハウ、地方自治制度、また伝統的な農業技術から最先端の科学技術に至るまで、多岐に亘る分野をカバーしています。(引用：JICA ホームページ)

海上保安庁では、海上犯罪取締り、救難・環境防災、海図作成の研修を行っています。